

令和 7 年 度

一般入学試験

国 語

時間： 50 分
満点：100 点

受験についての注意

- 1 試験開始の合図があるまで、問題用紙を開かないでください。
- 2 問題用紙は 12 ページ、問題は 一～三 まであります。
- 3 解答に文字数の指定がある場合には、句読点を 1 字と数えるものとします。
- 4 「試験開始」の合図があったら、まず解答用紙に氏名と受験番号を記入し、
受験番号バーコードのシールを指定の場所に貼ってください。
- 5 試験中、問題用紙の印刷が見えにくい、または文章等で不明な点がある場合は、
手をあげて監督者に知らせてください。ただし、問題に関する質問には、いっ
さいお答えできません。
- 6 各問題とも、解答は解答用紙（別紙）の所定欄に記入してください。
- 7 「試験終了」の合図があったら、ただちに筆記用具を置き、監督者の指示に
したがってください。
- 8 解答用紙だけ回収します。問題用紙は持ち帰ってください。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数に制限のある問いは句読点や記号なども一字に数えます)

僕は大学生のみなさんに政治学を教えています。政治学といっても切り口はたくさんあります。これまで教えてきたテーマは、「ナショナリズムの歴史と現在」「グローバル化と現代政治」「戦後政治と社会運動」、それから「原子力の政治史」などさまざまです。

そしてこれらの授業の学期末には必ずレポートを提出してもらうことにしています。「はじめに」でも述べましたように、人前で政治的意見を述べるのはなかなかハードルが高いですね。ですからレポートというかたちでそつと政治や社会の問題についてのみなさんの体験や考え、意見を教えてもらうのです。いってみれば先生^Aアテの手紙のようなもので、「これは凄い」と思わず唸^{うな}るような意見を寄せてくれる学生も結構います。こうした学生のみなさんからの手紙を、毎年数百人分、十数年にわたって読んできましたから、みんなの意見や価値観の移り変わりもそれなりには理解できるかもしれません。^①この十数年のうちに、みなさんの考え方や価値観はどのように変わってきたのでしょうか。その好個の事例は「外国人」にかかわることだと思っています。「グローバル化」「ナショナリズム」という現代政治につきもののテーマを^Bコウギしている、必ず外国人問題について触れることになります。かつては、レポートで「外国人と私」のかかわりについて論じてくる内容の大半は、留学での学生同士の交流や、外国観光での出会いの話でした。ところが近年増えてきたのは、「スーパーでバイトしていて、ベトナム人の同僚にいろいろ教えてもらった」や「コンビニでバイトをしていて、タイ人の上司に助けてもらった」という体験談です。つまり学生であるのに、「働く仲間」としての外国人を論じるレポートがずいぶんと増えてきているのです。

昔々大学生活というのは、就職するまでの「猶予期間^{ゆよ}」とみなされてきました。年間の学生生活のうち、単位取得のための授業はそこそこ出席して、自分がやりたいことに大半の時間を費やすというのがキャンパスライフでした。とりわけ日本経済が好調だった一九八〇年代の「バブル期」には、バイトはスキーや海外旅行にいくために稼ぐ手段とみなされてきました。

^X、現在はどうかでしょうか。私大生の平均的な仕送り額は月八万二四〇〇円と過去最低にまで低下しています。バイトで稼ぐ平均月収は、コロナ危機ということもあり三万三〇〇〇円程度にまで低下しています。そして週に三日以上バイトしている学生はおよそ六割を占めています。こうした数字からは、かなりの時間を、学費や生活費を稼ぐためのバイトに費やしていることがわかります。「遊ぶためにバイトをする」という学生像は崩れ去り、コンビニやスーパーといったサービス業で^C非正規労働者として働く学生の姿がもはやあたりまえになっているのです。

^Y スーパーやコンビニで働くみなさんが外国人と一緒に働くようになったのもまた、日本の労働市場の変化に伴ったことです。日本国内で働く在留資格をもつ外国人の数は、二〇〇八年の約四九万人から二〇二〇年には一七二万人と激増しています。この外国から来る人たちの多くは、「技能実習生^②」という資格で日本に入国し、働いています。この技能実習生制度は「日本の産業で働くことで技能を習得し、母国に戻って産業の発展に貢献する」ための「実習^D」を建前にした制度ですが、現実には労働者としての権利を与えられずに、使い捨てのよ

うなかたちで働かされるケースが多発しています。多くの外国人実習生たちは、一〇〇万円以上の借金をして日本に移り住み、工場や農家、サービス産業で低賃金の厳しい仕事をこなし、母国に仕送りをしているのです。しかもケガや病気といったトラブルがあっても労働者として扱ってもらえず、突然クビにされたりしています。この「技能実習生制度」は外国人労働者を無権利状態で搾取する制度にほかなりません。アメリカ政府の外交機関である国務省は、二〇二一年度の報告書で、この日本の技能実習生制度を「外国人労働者搾取のために悪用し続けている」として問題視しています。こうした外国人にとって無権利な状態であるにもかかわらず、「故郷よりも稼ぎがよい」という理由からこれからもますます多くの外国人が働く場を求めて日本に来ることになります。二〇二一年七月、オリンピックに参加するために来日したウガンドアの選手が選手村から行方不明になりました。この選手は「生活の苦しい国には戻らず、日本で仕事をしたい」などと記したメモを残していたそうです。

少子高齢化が進み、働き手の不足している日本では、それまでは働き手として期待されていなかった人たち——女性、老人、学生、外国人——が「活躍」を求められています。スーパードコンビニ、外食産業でまず活躍を期待されたのは女性でした。とりわけ「シングルマザー」といわれる、単身で子どもを抱えた母親は、子育てと仕事を両立するために非正規雇用を選択せざるをえません。

パート・アルバイトに従事するシングルマザーの割合は四三％にのぼり、低賃金で子育てをするという過酷な状況に置かれています。ある学生はレポートに「スーパードバイトをしているが、コロナのせいで学校が一斉休校になり、同僚のお母さんが子供の世話をせざるを得なくなり、シフトが埋まらなくて僕が入らなくなりました。毎日バイト漬けです……」と書いています。

③ 学生、外国人、シングルマザーが、おのおのの生活と未来を守るために、同じ職場で、同じ条件で一緒に働くなどということは、みなさんの親の世代ではとても想像できなかった状況です。大学進学率が低かった時代、学生は「エリート」で、留学や勉学を通じて世界を知り、社会に貢献する存在でした。しかしいまや多くの学生は高額の奨学金を背負い、学費と日々の生活のためにアルバイトに勤しんでいます。そしてその働く現場でシングルマザーや外国人と出会い、ともに働く中で世界の現実を知るといような変化が生じているのです。ですからこれから論じていくグローバル化とは、教科書の中や旅行先にあるものではなく、みなさんの身の回りに生じている現象なのです。

人の意見や価値観は、人から教えられるよりも、自ら体験することからより育まれていきます。ある学生はレポートに、コンビニのバイトの同僚のバングラディッシュ人が携帯を買ったら親に怒られたという話を聞き、どうしてと尋ねたところ、バングラディッシュでは一〇万円あれば三か月暮らせるから贅沢と咎められたそうです。この学生はこう結論づけています。「日本でアルバイトをするだけでも、国によって少し裕福な暮らしができると考えたら、日本に働き口を求めてやってくる人が増えるのは、いたって自然な流れである。」韓国人、中国人、ベトナム人とろくに接したこともなく、テレビの向こう側の外国人しか知らない大人たちよりも、コンビニのタナを一緒に整理し、ひよっとしたら夜勤の時に片言の会話でお互いの将来について語り合ったことがあるかもしれないみなさんの方が、はるかにこの④ した世界の現実を知っているのかもしれないのです。

木下ちがや『みんな』の政治学変わらない政治を変えるには?』より

問一 二重傍線部A～Eのカタカナは漢字に直し、漢字には読みがなを「ひらがな」で書きなさい。

問二 傍線部①「この十数年のうちに、みなさんの考え方や価値観はどのように変わってきたのでしょうか」とあるが、筆者はどのようにして、学生の考え方や価値観の変化を観測しているか。それを説明した次の文章の空欄に当てはまる語をそれぞれ指定された字数で本文中から抜き出さない。

筆者は大学で A (三字) を教えているが、授業中に学生が意見を述べるのは学生にとって B (七字) ので、毎年レポートを提出させている。

問三 空欄X・Yに当てはまる言葉として正しい組み合わせを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|-----|---|---|------|---|-----|
| ア | X | それとも | Y | そして | イ | X | それとも | Y | しかし |
| ウ | X | ところが | Y | そして | エ | X | ところが | Y | しかし |

問四 傍線部②「技能実習生」の制度について、筆者が挙げている問題点として適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|---|--------------------------------|---|---------------------------|
| ア | トラブルに遭遇した場合に解雇されてしまうこと。 | イ | 母国で負った借金の返済が滞ってしまうこと。 |
| ウ | 実習生に、労働者が本来与えられる権利を与えられていないこと。 | エ | 多くの実習生が、十分な賃金を受け取れていないこと。 |

問五 傍線部③「学生、外国人、シングルマザーが、おのおのの生活と未来を守るために、同じ職場で、同じ条件で一緒に働くなどということとは、みなさんの親の世代ではとても想像できなかった状況です」とあるが、特に学生がこのような働き方をすることを想像することができなかった理由について、五十字以内で述べなさい。

問六 空欄④に当てはまる言葉を、本文中から六字で抜き出さない。

問七 本文の内容として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 現代は数多くの外国人が来日しており、それを批判的に検討することで新たな価値観を発見することができる。
イ 多くの外国人がコンビニなどで働いていることから、学生は新たな考え方などを知るが、それが問題を引き起こすこともある。
ウ シングルマザーは、育児や家事の都合で非正規労働者として働かなくてはならないことも多いが、それは問題なので、正規雇用されるべきである。

エ 実際に外国人とふれあい、語り合う現代の学生は、過去の学生や一般的な大人たちよりも、外国人と考え方を共有している。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数に制限のある問いは句読点や記号なども一字に数えます)

「実習時間が、週に一回、四時間の授業を確保するのがゲンカイ^Aだな……」

小浜水産高校のときは、毎日、朝から夕方まで一日中、実習を連続して行っていた。それなのに、週にたった一日、しかも四時間では少なすぎる。

それには理由があった。二つの学校が統廃合するとき、実習は水産高校で行うことが決まっていた。生徒たちは、若狭高校からバスで小浜水産高校のあった海洋キャンパスに移動しなければいけない。さらに、生徒たちが大学進学も選択できるように、受験対策などの勉強もすっかりやってほしいと、要望があったのだ。

「これでは、以前のようにサバ缶はつくれませんよ」

実習教諭たちも、これまでのようにはいかない体制に、肩を落とした。

そればかりではなかった。海洋科学科の一年生たちには、海を好きになってもらうため、実習の時間に、たくさんの種類の体験的な学習を取り入れた。小型実習船で釣りに出たり、スキューバダイビングをしたりと、周りから見ればずいぶん楽しそうに見える。

①「遊んでいるようですね」と、それに眉をひそめる先生もいた。

小坂先生は、自分の大学受験のときのことを思い出していた。

(点数だけの大学選びをしていたけれど、浪人したときに、自分の「好き」を考えるようになった。大学で初めて海の体験的な学習を経験したことで、今の自分があるのだけれど……)

しかし、与えられた授業時間の中で、やるべきことを考えなくてはいけないのだ。
考えれば考えるほど、悪い方に気持ちが向いていく。

小坂先生は、実習教諭たちと相談して、一年に何万個もつくってきたサバ缶の授業をやめることにした。

ちょうど、そんなときに、JAXAから宇宙日本食候補の募集の連絡が来たのだ。^{*}

(あまり気が進まないけど……。とりあえず応募しておこうか)

生徒の思いを胸にJAXAを訪れた、あの熱い小坂先生だったが、すっかり気落ちしてしまっていた。

(このままでは、宇宙食のサバ缶を開発するのも、無理かもしれない。七年もかけて開発してきたのに、すべてが水の泡になる。鯖街道を国際宇宙ステーションにのばすなんて、夢のまた夢……。)

^②毎日、出るのはため息ばかりだった。

そんな大変な状況を、生徒たちは何も知らない。海洋科学科の新入生たちは、^Bキボウに胸をふくらませて入学してきた。

その一人、村橋里菜さんは高校受験のときに、普通科と海洋科学科と、どちらを選ぶかなやんだ。だけど、小さいときから海が好きで、食品開発に興味があった。

「宇宙食の開発がしたい!」

そう思って、この海洋科学科を選んだ。

(中略)

村橋さんたちはレトルトパックではなく、小浜水産高校からの伝統を引きついだ「サバ缶」で研究を始めた。JAXAの中沢さんから出されていた課題は二つある。サバのしょうゆ味付けに使う「タレの粘度」と「濃い味」だ。

まず宇宙食の絶対条件である「粘度」の研究から始めることにした。そばで見守ってくれたのは、実習教諭の宮崎洋先生だ。村橋さんがチームのメンバーに聞いた。

「粘り気が必要っていわれてもなあ。どんな食品を使ったらいいかな?」

缶詰をあけたときに、しょうゆの入ったタレが飛び散ると、^{*}ISSの機器に水滴が入ってしまい^Cコショウの原因になる。

「ゼリーに使うゼラチンが、いいんじゃないかな」

「ほかに、かたくり粉や、コーンスターチがあるよ」

「とにかく、やってみよう」

メンバーの三人は材料を買ってくると、実験を始めた。しょうゆ、砂糖、水をまぜたタレに、ゼラチンを少しずつ入れていく。分量をふやしても、なかなかタレに粘り気が出てこない。

「こりゃ、ダメだな」

かたくり粉やコーンスターチは、タレの味が変わったり、粉っぽくなったりと、やっぱりうまくいかなかった。

「くず湯も粘り気があるよね。子どものころは、かぜをひくと、おばあちゃんが作ってくれて飲んだなあ」
昔からくずには、疲労回復やかぜに、ききめがあるといわれている。

「熊川のくずって、若狭の名産品やね」

熊川くずの原材、若狭湾へそそぐ北川の上流に自生する植物の根っこだ。とても品質が良く、掘り起こされたくず根はていねいにたたいてこしたあとで、十一月～三月の寒い時期に、手作業で清流に何度もさらす。

「くずまんじゅう、うまいよな」

「つかれた体にきいて、おいしくて、しかも地元の名産品なら、三拍子そろってる！」

「熊川くずは、原材料としては最高やね」

三人は熊川くずを使って、すぐに実験を始めた。

ところが、やっぱりうまくいかない。タレに直接くず粉を入れたら、白い玉がいくつもできて、うまくまざらなかった。
くずを使う和菓子屋さんに相談して、アドバイスをもらった。

「先に、水にくずを、とかしたらいいんだ」

「やってみよう」

「始めるぞ」

「とけるとける。うまくいきそうや」

水に対してくずをまぜる分量が、どれくらいで粘り気が出てくるのか。

水とお湯でちがいはあるのか。くずをとかす温度は何度がいいのか。

「よし、これならいけるかもしれんわ」

ようやく、くずは四十度のお湯にとかすといことがわかった。

さらに実験は続く。しょうゆや砂糖のタレに、くずを加えたときにどうなるのか。

くずをまぜると、味に変化はないのか……。

調味料とお湯にとかしたくずを、まぜ合わせる。

「ええ感じや、まざっとる」

くずの濃度を変えながら、味見をする。

三人は何度も何度も実験をくり返した。時間は限られている。タレを作るのに時間がかかるのと、砂糖が入っているので、ずっとまぜてい

ないと、鍋の底がすぐにこげついてしまう。目標の数値は「七〇〇ニュートン（粘度を表す単位）」だ。

^D分析機関に提出したところ、特製タレに九%のくず粉を入れることで、いちばんよい粘性^Eが得られることがわかった。こうして、試行錯誤をくり返しながら、ようやくタレが完成し、サバの缶詰をつくることができた。

ところが、できあがった缶詰のプルタブをあけたとたん、^③村橋さんはがっくりと肩を落とした。伝統のサバ缶と、まるで見た目がちがう。うす茶色のサバの身の上に、コーヒーゼリーのような茶色の特製タレがのつかったままだ。

皿の上に取り出してみると、完全に二つの層に分かれていた。

「まるで、プリンみたいや……」

見た目が、カラメルソースをかけたプリンにそっくりだ。

「味見してみようか」

サバの身をはしで取って、口の中に入れたとたん、顔をしかめた。

「味うすつ、マズッ！」

すっかりへこんでいる。こうも失敗が続くと、やる気がうせる。

どんなにおいしい特製のタレができて、宇宙食の粘度をクリアしても、かんじんのサバ身にしみこまなくては話にならない。

「あーあ、何が原因やろ」

「特製タレの粘性はバッチリなのに、くやしい」

負けずぎらいの村橋さんは考えながら、さらに実験を何度もくり返した。

「失敗したっていい。むだなことは一つもない。くやしい気持ちバネになる。それだけ成功に近づいていくんだから」

課題のもう一つ。それは「濃い味」だった。

（ちょうどいい濃い味って何だろう）

村橋さんは考えた。だけどよくわからない。

「宇宙では、無重力の影響で味覚がぶくなることから、特別食としては濃い味つけのものが選ばれるんだ」

先生たちはいうだけで、具体的なことを教えてくれなかった。

村橋さんたちは、自分たちで調べて、宇宙食には「標準」と「特別食」があること、特別食は宇宙飛行士が自分たちの好みで選べることを知った。

「ところで、どれくらい濃くすればいいの？」

健康のこともあるから、あまり濃くもできない。

「宇宙飛行士の気持ちになるのが大切だね。だけど、なれるかな」

(宇宙に行ったことないのに無理や。わからんわ)^④

村橋さんは心の中でつぶやきながら、救いを求めるように小坂先生を見た。だけど、やはり何も教えてくれない。

先生たちは今までの経験から、一方的に教師が知識や技術を教えるだけでは、生徒たちのためにならないことを痛感していたのだ。自分で課題を見つけ、仲間と知恵を出しあい、解決していくことで、ようやく、「自分たちがつくったサバ缶」といえる。

それに、そもそも、宮崎先生や小坂先生自身も、答えは知らない。実は、とてもむずかしい問いに挑戦していたのだ。

だれも答えを知らない問いに、村橋さんたちは必死に考えた。サバ缶の実験が失敗続きでも、家に帰れば温かい夕ご飯ができている。部活でしっかり体を動かしたあとに、ちょうどいい塩気のあるおいしい。

(家であつたかいご飯を食べると、心まですと温かくなる。特においしいものや、好物のメニューはうれしいなあ)

それを、実際にサバ缶の味で表現するのはむずかしい。

村橋さんは、そもそも宇宙のくらしについて、くわしく知らなかった。

一日中、体がふわふわ浮かんでいるのかな？

トイレに行くときは、どうするんだろう。

ご飯はみんなで食べるのかな？

地球にいる家族と、話ができるのかな？

浮かんできた疑問を、インターネットで調べてみると、無重力の状態では体が浮いてしまうので、トイレで用をたすときも、運動するときも、体を固定していることがわかった。

足を使わないので、どんな筋力がおとろえて、宇宙では地球の十倍も速いスピードで、カルシウムが失われていくことも知った。

(サバ缶ってカルシウムがたくさん取れる！宇宙飛行士さんの体にもいいし、体にいいものを食べると気持ちも元気になれる) そう考えると、元気がわいてくる。

また、船外活動はとても過酷で、命の危険にさらされている。緊張の連続だ。

宇宙飛行士たちに思いをよせながら、しょうゆや砂糖を加えてみる。食べる宇宙飛行士のことを思いつくつたサバ缶は、地上では少し濃い味の缶詰となった。

小坂康之・別所芳子 『宇宙食になったサバ缶』より

* JAXA：宇宙航空研究開発機構。

* ISS：国際宇宙ステーション。

問一 二重傍線部A～Eのカタカナは漢字に直し、漢字には読みがなを「ひらがな」で書きなさい。

問二 傍線部①「遊んでいるようですね」とあるが、この発言から読み取れる心情として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 実習で釣りやスキューバダイビングをしているのをうらやましく思う気持ち。

イ 実習で釣りやスキューバダイビングをするのは、学校の授業としてふさわしくないとと思う気持ち。

ウ 受験勉強のことを考えると、サバ缶づくりは遊びのようなものだという気持ち。

エ 海洋科学科の一年生たちに興味をもってもらうためとはいえ、サバ缶づくりなどの体験学習に反対する気持ち。

問三 傍線部②「毎日、出るのはため息ばかりだった」とあるが、このときの小坂先生的心情として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 進路のことを考えると宇宙食サバ缶の開発は中止したほうがよいと考えているが、生徒が開発したがっているのどどのように説得するべきか悩んでいる。

イ 宇宙食サバ缶の開発に熱い思いをもっているが、JAXAに行ってそれが無理だと悟り、悲しく思っている。

ウ 生徒のためを思うと、サバ缶づくりを続けたほうがよいと思っているが、学校の状況が変わってそれが難しくなり、悩んでいる。

エ 宇宙食サバ缶の開発を続けたいという思いがあるが、生徒たちがそれに賛成してくれるかどうかを心配している。

問四 傍線部③「村橋さんはがつくりと肩を落とした」とあるが、その理由を本文中の言葉を使って四十字以内で説明しなさい。

問五 傍線部④「救いを求めるように」とあるが、このときの村橋さんはどのようなことで悩んでいたのか。六十字以内で説明しなさい。

問六 傍線部⑤「地上では少し濃い味の缶詰となった」とあるが、その理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 分析機関による調査の結果、濃い味付けのほうが従来のサバ缶の仕上がりに近くなることが分かったから。

イ 宇宙の無重力状態で味覚がなくなり、濃い味付けを好む宇宙飛行士の気持ちを考えてから
ウ 健康的な食事をつくることで、高い評価を得ることができると考えたから。
エ しょうゆや砂糖を加えることで、カルシウムを多くとることができると考えたから。

問七 本文で使われている表現方法について最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

登場人物の内心の状態が直接書かれ、読み手に伝わりやすくなっている部分がある。

イ 擬人法が多く使われ、登場人物たちがおかれている状況がわかりやすくなっている。

ウ 会話文では方言も用いられ、登場人物の心情がわかりやすくなっている。

工 専門用語を多く用いることで、正確な情報を読者に提供している。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

徳大寺故大臣殿、
 検非違使の別当の時、
 中門にて、
 使庁の評定行はれけるほどに、
 官人章兼が牛放たれて、
 庁の内へ入りて、
 大理の座の浜

床ゆかの上に登のぼりて、
にれうちかみて臥ふしたりけり。

重き怪異なりとて、牛を陰陽師のもとへつかはすべきよし、各々申しけるを、父の相国聞き給ひて、「牛に分別なし。足あれば、いづくへ

か登らざらん。^{*わうじやく} 羸弱の官人、^{びぎゆう} たまたま出仕の微牛を取らるやうなし」^③とて、牛をば主^③に返して、臥したりける畳をば換へられにけり。

あへて凶事なかりけるとなん。

④あや
「怪しみを見て怪しまざる時は、怪しみかへりて破る」と言へり。

『徒然草』より

* 徳大寺故大臣殿：藤原公孝のこと。亡くなった後の記述なので故大臣とされている。

* 検非違使：現在でいう警察の役割を行う役所。 * 別当：長官。 * 評定：会議。 * 大理：検非違使の長官。

* 浜床：身分の高い人が座る床。 * にれうちかみて：一度食べたものを口に戻してまた嘔む。

* 陰陽師：占いや地相判定などを司った人 * 父の相国：徳大寺故大臣殿の父親。 * 厩弱の：位が低い、貧しい様子。

問一 傍線部①「官人章兼が牛放たれて」の現代語訳として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 官人章兼が牛を逃して

イ 官人章兼の牛が逃げて

ウ 官人章兼と牛が逃げ出して

エ 官人章兼のところへ牛が逃げて

問二 傍線部②「登りて」の主語を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 官人章兼

イ 徳大寺故大臣殿

ウ 陰陽師

エ 牛

問三 傍線部③「やうなし」を現代仮名遣いに改めて「ひらがな」で書きなさい。

問四 傍線部④「怪しみを見て怪しまざる時は、怪しみかへりて破る」の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 怪しい人や物には早くから警戒しないと、身の回りの物を壊されてしまう。

イ 不吉なことに気づかなければ、結局悪いことは起こらなくなるものである。

ウ 不吉な予兆があったとしても、それを気にしなければ結局悪いことは起こらない。

エ 不審な人がいたとしても、予想を裏切つてよいことをしてくれることもある。

問五 この文章は、鎌倉時代に書かれた『徒然草』の一節である。作者として正しい人物を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 和泉式部

イ 吉田兼好

ウ 清少納言

エ 鴨長明